

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	D-20-1-1		
事業名	旭市防災まちづくり拠点施設整備事業（防災井戸）		
事業費	総額 8,651 千円（国費 6,920 千円） （内訳：調査委託費 1,427 千円、工事費 7,224 千円）		
事業期間	平成 24 年度		
事業目的・事業地区	・事業目的 旭市復興計画において、避難所等に設置してある防災井戸を、断水時の生活用水を確保するため順次増設するとしており、旭市復興まちづくり計画では、東日本大震災で長期間避難場所として利用した海上公民館と、食料供給拠点として指定しているふれあいセンターに防災井戸を設置することとした。 また、避難訓練や防災教育など、日頃から津波への意識を高めるため、海拔表示板を設置する。		
	・事業地区 防災井戸 海上公民館 旭市高生 1 ふれあいセンター 旭市入野 1355-1 海拔表示板 市内 300 箇所		
事業結果	○防災井戸 海上公民館 井戸深 10m ポンプ小屋 1 棟 ふれあいセンター 井戸深 10m ポンプ小屋 1 棟		
			
	①海上公民館 防災井戸建屋	②海上公民館 防災井戸	
			
	③ふれあいセンター 防災井戸建屋	④ふれあいセンター 防災井戸	

○海拔表示板 板面寸法 横 330 mm×縦 400 mm 電柱に設置 300 箇所



### 事業の実績に関する評価

#### ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

防災井戸は、停電時も作動させることができるよう、エンジン付きポンプを設置した。また海拔表示板は、単に海拔表示だけでなく、海岸エリアに設置したものは、「津波に注意」と合わせて表示し、市外から訪れた人や過去の津波被害に詳しくない人にも、注意喚起を図ることが可能になった。

#### ② コストに関する調査・分析・評価

海拔表示板は、単独柱を使用することなく、全てを電柱に設置するようにし、コスト削減を図った。

#### ③ 事業手法に関する調査・分析・評価

海上公民館、ふれあいセンターへの防災井戸の設置、海拔表示板を設置したことで、地域の防災力向上につながった。また、海拔表示板は、単独柱を使用することなく、全てを電柱に設置するようにしたため工期短縮が図られ、想定期間内に業務を完了したため、事業手法は適正であったと考える。

事業担当部局

総務課地域安全班 電話番号：0479-62-5311